

聖和短期大学通信 No. 12

卒業生の皆さまには、ますますご活躍のこととおよろび申し上げます。さて、今年も聖和短期大学通信を、お手元にお届けいたします。聖和短期大学の『今』の様子や先生方からの近況報告を掲載しました。学生時代のことや聖和キャンパスを思い出しながらご一読ください。

2020年度を振り返って

新型コロナウイルス感染症拡大への対応

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大という誰もが経験したことのない、予測できない事態になりました。本学を選び、信頼して入学してくださった学生の皆さんの夢を実現するためにはどうすべきか、常に検討を重ねてまいりました。感染症拡大防止の社会的使命を果たすために、春学期は、5月まで対面授業を中止し、6月以降は、感染防止策を講じた上で一部の授業を再開いたしました。3月の施設実習、4～7月の幼稚園での実習と、保育所等での実習は中止いたしました。

学習支援として、オンライン授業が実施できるように5月にはポータルシステムの新機能の導入、同時双方型の授業ができるようにZoomアカウントの購入、オンライン授業に関する学生の皆さんの受講環境を整えるために、ノートパソコンとWiFiルーターの無償貸し出し、コンビニエンスストアでのネットプリントサービスの提供などを行いました。本学の学生のうち、ノートパソコンは約25%、モバイルルーターは約11%、ネットプリントサービスは約15%の学生が利用しました。

経済的支援として、家計急変やアルバイト収入の激減により経済的に困窮している学生が増えていることを鑑み、急遽、特別支給2020奨学金（上限40万円の支給奨学金）の新設、卒業後の年収が300万円以上になるまで返還を猶予する聖和短大ヘックス（HECS）型奨学金（上限20万円）を新設しました。

秋学期については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から対面授業とオンライン授業を併用して行うために、時間割を再編成し、対面授業とオンライン授業を、それぞれが実施しやすいように曜日を分け、新たに時間割を作成しました。授業時間についても、通学時の三密をできる限り避けるために、原則として授業開始時間を遅くし、終了時間を早くしました。2年生は春学期にできなかった実習を実施するために、秋学期の一部科目を春学期に移行し、感染がさらに拡大した場合に備え、急遽8月に保育体験実習を実施しました。10月～12月に4月～7月に実施できなかった幼稚園での実習、保育所等での実習を実施しました。

このような状況に対して経済的・運営的な支援もなく、大学の運営は非常に厳しい状況におかれています。大学が社会的使命を果たすことができるよう、さまざまな面からご支援くださいますようお願いいたします。

園長等の推薦入試制度の導入

総合型選抜入試に、「幼稚園、保育所、認定こども園等の園長推薦制度」を新規に導入しました。推薦園での職業体験、ボランティア活動等の実績がある方が対象となります。合格者は、いくつかの条件や本人の希望の有無もありますが、推薦した園で実習をします。保育を学ぶ人が急激に減少しています。免許資格を取得しても、保育現場への就職希望者も減少し人材不足は危機的状況です。園として必要な人材を本学は養成し、保育を支えてまいります。適当な方がいらっしゃれば、ぜひご推薦下さい。また、現職保育者の再教育としてキャリアアップ研修（西宮聖和・大阪梅田）も開催しています。保育を学び直すいい機会になりますので、ぜひご活用ください。

学長 千葉 武夫

ご報告

橘 実千代 元准教授が逝去されました（2020年4月7日）。

橘 実千代先生は、1975年4月に聖和女子大学付属北聖和幼稚園教諭にご就任されてから2018年3月に聖和短期大学をご退職されるまで、実に43年間この聖和にてご奉仕いただきました。幼稚園の園児、児童相談研究所で支援を必要とする子どもとその保護者、短期大学の教員として、多くの学生の育ちを支えていただきました。先生がよくおっしゃった言葉は「だいじょうぶ？」と、「あなたのことをいつも心の中で思っている」で、先生のお人柄がよくわかります。研究室には、在学生・卒業生がよく訪れ、その近況を楽しみに聞いておられた姿を思い出します。また、研究者としては援助を必要とする子どもに関する研究に真摯に取り組まれました。「特別支援教育の推移と日本LD学会の活動についての一考察」（聖和短期大学紀要第3号2017年12月発行）が、遺稿となりました。楽しいことも苦しいことも誠実に向き合う立派な教育者でした。天国に召された橘 実千代先生の平安をお祈りいたします。



この度、2021年3月31日付で、齊木久代教授と高田正久教授がご退職されることになりました。お二人は長きにわたり聖和の発展にご尽力されてきました。これまでの様々な聖和との思い出や感謝を綴ったメッセージを頂きましたので、ここにご紹介いたします。

退職にあたって

齊木 久代

阪急門戸厄神から聖和に至る坂を上って、私が、初めてこの聖和キャンパスに足を踏み入れたのは、1992年、今から、約30年前のことになります。当時は、現在の正門はまだなく、南門が正門でした。南門の前は最後の急な坂で、門にたどり着いて初めて、視界が開け、構内を見ることができます。右手の図書館と奥にある6号館、7号館はすでにありましたが、山川記念館、現在の1号館、5号館の建物も、当時は、まだなく、建て替えられる前の建物がありました。旧1、5号館はいずれも木造の2階建て、山川記念館の位置にあった旧チャペルは平屋でした。旧5号館は2階建てだったので、その向こうには、校歌にあるように六甲の山並みを臨むことができました。旧1号館の玄関に立ち、一段上がった黒光りする木製の廊下に土足のままあがってよいものが緊張し、躊躇したことが思い出に残っています。決して、豪華でも、立派でもない、しかし、当時の教職員の方々が心を込めて磨き、大切にされていることが感じられるキャンパスでした。そこにはキャンパスの香りがありました。聖和の森の木々の香りであり、毎朝、流れる讃美歌の歌声、オルガンの音色であり、優しさの中にある厳しさ、子どもに対しても常に本物で対したいとの伝統でしょうか。大先輩の女性の先生方のお姿が目につきます。今は、女性も大学に進学するのが当たり前の世の中になりましたが、その先生方は、第二次世界大戦時に学齢期にあり、戦後間なしに、女性として、当時は少数であった高等教育を受けた方々でした。やさしさの中に、厳しさがあり、自律への強い信念が感じられました。

1993年4月にこのキャンパスで勤めはじめ、翌年度の1995年1月17日に阪神淡路大震災が occurred。その後、関西学院との合併を経て、キャンパスは随分立派になりました。聖和の森の木々も30年の内にさらに大きく育ちました。時の流れは、止めることは出来ません。様々な方々が、このキャンパスを訪れ、去って行きました。在任中に天に召された方々もいらっしゃいます。私の出会うことのできた方々、さらには、歴史を紐解き出会った方々、その時々、思いをもって築かれた建物、植えられ育つ木々。退職に当たり、このキャンパスで過ごすことのできた日々を感謝するとともに、これからも、この歴史あるキャンパスと出会うことが皆の人生を豊かにしてくれることを祈ります。



南門付近より聖和キャンパスを臨む（2021年1月）

聖和の森に導かれて

高田 正久

聖和で音楽の教員として歩み続け39年間、この3月で退職の「時」を迎えることとなりました。

私が初めて聖和のキャンパスに足を踏み入れたのは48年ほど前で、若き「音大生」の頃に演奏会の案内チラシを配布するためでした。また、聖和女子大学の時代でしたが、坂を上がり南門から入るとすぐにテニスコート、木造の講堂（チャペル）や1号館などが目に入り、豊かな緑に囲まれた校舎、静けさと穏やかな空気感がとても印象的でした。その時は10年後に勤める事になるとは思いませんでしたが、振り返れば、幼い時から続けてきた音楽と教会生活が結び付き、導かれた職場のように思います。音楽との出会いは、クラシック音楽好きでクリスチャンだった父から、教会での奏楽奉仕ができるように育てて欲しいと家のリードオルガンを使って、バイエルを教わったのが始まりでした。その後、音楽の道へと進むことになった次第です。

人生には様々な人との出会いや出来事、また書物や言葉などとの出会いがありますが、私自身は家族や友人、学校の恩師、そして教会生活や音楽の1つ1つの出会いが不思議に繋がり、聖和の森へと導かれたように思います。しかし音楽の分野とは異なる保育者養成の世界に、最初は日々緊張と不安、戸惑いの連続でした。当時、音楽をご担当の本間光子先生、畑 玲子先生、山浦菊子先生など諸先生方から助言を仰ぎながら歩み始めました。また着任当初、当時の松永普一学長から「音楽の教員として授業以外に毎日の礼拝で奏楽担当をお願いします。」とのお話を伺った際には、改めてキリスト教主義大学に勤めることを実感したことを思い出します。専任教員として、種々の仕事を担い、人間関係も含め多くの学びを得、また成長させていただいた39年間でした。何よりも楽しく思い出すのは、例年、1年生の入学直後に行われていた1泊2日のフレッシュマンキャンプです。テーマを考え、学生と教職員が一緒になり、企画、準備の段階から協力し合いながら進め、当初は関西学院の千刈キャンプ場で行っていましたが、キャンプ場の学生リーダーの協力の下、キャンプファイヤーや大運動会、火おこしから始めた飯盒炊爨、また夜の見回りなどなかなか「体力と気力、のいるキャンプでしたが、無事に終えた際には、学生たちとの一体感が芽生え、また成し遂げられた達成感があつ



たことを懐かしく思い出します。

長い勤めの間には、学科の増設や縮小、26年前の阪神大震災、また11年前には関西学院との法人合併など時代の流れの中、学校全体が揺り動かされることもあった歩みでしたが、これまで多くの教職員の方々に支えていただき、若い学生達からはエネルギーをもらい、音楽の教員として、また礼拝の奏楽に携わりつつ、歩んでこられたことは何よりの幸いと感謝しています。

皆さまとまたお会いできる日を楽しみにしております。

これからも関西学院聖和短期大学が、歴史の中で培われてきた良き伝統を受け継ぎつつ、学科「新しき歌」のごとく、キリスト教精神に基づき、新しい時代に向かって大いに歩んで行かれることを心からお祈りしております。

本当に長い間ありがとうございました。



森研究室より ～聖和の実習教育から思うこと～

2001年に聖和短大に教員として着任し、20年が経ちました。当初から実習科目を中心に担当してきましたが、20年目の節目である2020年度は、思いがけないコロナ禍で、実習教育の原点を見つめ直す日々となりました。大変な状況の中で実習を受け入れてくださった実習先の先生方への感謝と、保育を学ぶために強い思いで実習に臨んだ学生たちの姿に励まされた一年だったと思います。

卒業生の皆さまが学生時代に取り組まれた実習はどのようなものだったでしょうか。多くの時間を費やし、精一杯の力を注いで過ごした日々は、貴重な経験として心に刻まれていることと思います。

関西学院との合併や教育課程の改正など、これまでさまざまな変化がありました。聖和の長い歴史の中で培われた実習教育は、今も大切に受け継がれています。実習の基礎となる「教育保育参観実習」では、実習日の早朝8時前には聖和キャンパスに集合し、関西学院幼稚園、聖和乳幼児保育センターで観察実習を行います。午後は大学に戻り、少人数のクラスに分かれて授業…。一つひとつの保育場面を思い起こし、保育の意味を考えます。クラスの皆で学びを整理し、子どもの思いや保育者の援助のねらい（願い）を深く考察しながら、実習記録の作成につなげていきます。この20年間、学生の皆さんと一緒に私も多くのことを学んできました。

私の研究課題は、保育者養成における実習に対して教育的にアプローチすることです。実習生の学習環境や実習での学びを検討する中で、子どもの発達教育や保育者の専門性についても考えてきました。2年生のゼミでは、保育を取り巻く課題を取り上げ、学生たちは自身の関心のあるテーマについて研究しています。研究レポートをまとめるうえで、大きな原動力になるのもまた、実習での学びです。

これまで、聖和の敬愛なる先生方が実習教育に熱意を注いでこられました。これからも「子どもを主体とした保育」を探究し、保育者を目指す責任と保育を学ぶ喜びを学生たちと共有していきたいと思っています。

実習の授業では、久しぶりに聖和キャンパスを訪ねてきた卒業生に、サプライズゲストとして授業に参加して頂いたこともありました。2020年度は入構制限があり叶いませんでしたが、平穏な日常が戻り、この美しい聖和キャンパスで卒業生の皆さまとお会いできることを心から願っています。

(森 知子)



2020年度ゼミ生と一緒に



2019年度ゼミ授業

教員の異動をお知らせします

◇就任 手良村 昭子教授 (2020年4月1日付)



手良村 昭子 (Teramura Akiko)

- ①職位：教授
- ②専門：幼児教育学
保育内容表現
美術教育
- ③趣味：ギター
銅版画制作

④抱負：

卒業生のみなさま、はじめまして、手良村昭子と申します。
私は聖和大学を卒業して幼稚園の現場で働いておりました。そこで出会った子どもたちの表現のおもしろさや、素晴らしさに心を打たれ、更に学びを深めるために聖和大学大学院に進みました。ご縁があって2020年度から聖和短期大学に着任しております。美しい聖和のキャンパスで学生の皆さんが素敵な保育者になれるように全力でサポートしていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

INFORMATION

☆2022年度入学 入学試験のお知らせ

2022年度入学の入学試験を下記のとおり実施予定です。総合型選抜入試では、自己推薦できる者のほか、幼稚園・保育所・認定こども園等の園長が推薦する者あるいはキリスト教の洗礼を受けている者も出願が可能となっています。ぜひ、周りで保育・幼児教育にご興味ある方がいらっしゃれば、本学受験をお勧めいただければと思います。詳細につきましては本学ホームページをご参照ください。

※総合型選抜Ⅰ（エントリー型）は、5月末から8月にかけて随時エントリーを受け付け、出願可否を判断する面接を実施します。

入試区分	出願期間	試験日	合否発表日	入試区分	出願期間	試験日	合否発表日
総合型選抜Ⅰ（エントリー型）※	2021年9月1日(水)～9月14日(火)	—	11月1日(月)	一般選抜	A	2022年1月7日(金)～1月21日(金)	1月29日(土) 2月3日(木)
総合型選抜Ⅱ（直接出願型）	A	2021年9月15日(水)～9月24日(金)	10月2日(土) 11月1日(月)		B	2022年2月10日(木)～2月25日(金)	3月2日(水) 3月4日(金)
	B	2021年10月1日(金)～10月22日(金)	10月30日(土) 11月11日(木)	社会人	A	2021年11月29日(月)～12月10日(金)	12月18日(土) 12月23日(木)
	C	2021年10月25日(月)～11月12日(金)	11月20日(土) 12月2日(木)		B	2022年1月7日(金)～1月21日(金)	1月29日(土) 2月3日(木)
学校推薦型選抜	専願（A・B・C・D）	2021年11月1日(月)～11月12日(金)	11月20日(土) 12月2日(木)				
	併願	2021年11月29日(月)～12月10日(金)	12月18日(土) 12月23日(木)				

☆認定ベビーシッター資格登録更新手続きのお知らせ

2015年度（2016年3月）の卒業生で認定ベビーシッター資格を取得された方は、登録更新を迎えますので、お手続きください。

資格更新期限は5年間となっておりますので、お手許の登録証（カード）の有効期限をご確認ください。

※手続き窓口は右記参照⇒

【手続き窓口】

公益社団法人 全国保育サービス協会

（旧称：社団法人 全国ベビーシッター協会）

〒160-0017 東京都新宿区左門町6-17 三王商会四谷ビル7F

TEL 03-5363-7455 E-mail info@acsa.jp

※手続きの詳細はこちらのURLへ

<http://www.acsa.jp/index.htm>

☆「保育実践力育成プログラム（BP）—保育の学び直しプログラム—」のご案内

本プログラムは、保育の現場で働く人材の確保のために、しばらく職場を離れていた幼稚園教諭や保育士が職場復帰を希望する際や、資格を持ちながらも働いていない保育士等に対して、最近の保育の状況・動向等を現場実習も含めて学び直すことができるようなプログラムを提供するものです。

この講座の特徴は、自信を持って職場復帰することができるように新しい保育制度や家庭支援等の理論、アレルギーや危機管理等の保育配慮事項、保育実践等の内容、および現場実習で編成しています。また、本プログラムの内容は、現職の保育士が「質の高い保育」を実施するために重要な事項も含まれており、現職研修としても活用できるように計画的に構成しています。

「保育は人の手によって行われる営み」であり、子どもの育ちに大きな影響をあたえるのは「保育者」です。本講座の受講者が、より高度な専門的知識や技術を修得し、今後保育のリーダーとして活躍できる力を育成することを目指しています。

<プログラムの概要>

- 受講要件：①幼稚園教諭免許または保育士資格を有すること。
②全期間受講できること。
- 受講期間：2021年4月～2022年3月（1年間）
- 開講科目：保育と研修（集中講義）、保育実践（実習）
保育学研究演習（演習）
（BP）修了証書を発行いたします。



※寄付金のお願い ～卒業生の皆さまから、学生支援のために～

本学では、学生生活支援および教育研究環境の充実のために、寄付金を募集しております。寄付金のお申し込み及びお問い合わせについては、下記までご連絡をお願いいたします。なお、寄付金のお申し込みの際には、「聖和短期大学のために」と申し添えください。

（※ご協力いただいた寄付金は個人、法人ともに税制上の減免措置を受けることができます。）

お問い合わせは全て下記へご連絡ください。

連絡先 聖和短期大学事務室

住所 〒662-0827 西宮市岡田山7-54

TEL 0798-54-6504 E-mail tandai-jimu@kwansei.ac.jp

URL https://www.kwansei.ac.jp/seiwa_j_college/

2021年3月1日発行

学校法人関西学院 聖和短期大学

学長 千葉 武夫